

逝ってしまった尾崎英二君

磯野 昭彦 (昭31)



ああ、私と同期でいつも元気な尾崎英二君が突然逝ってしまった。残念至極だ。2023年3月6日循環器治療で入院し、3月15日退院予定だったが、その3月15日に急変、急逝してしまったとのことだった。

尾崎英二君が城北会に残した功績は城北会会員の中でトップクラスであろう。城北会としての損失は計り知れない。私の知っている尾崎君の主な活動は以下の通りである。

- ・1976 (昭和51) 年火災で那須寮はほぼ焼失、1978年再建工事落成、その後の1995年那須寮講堂改築等、また改修・補修などへの貢献
- ・永年城北会理事 (いつからかわからず)
- ・城北会財務委員会
- ・深井奨学財団
- ・都市・建築城北会
- ・千葉城北会
- ・やあやあ会 (昭和31卒同期会)
- ・ガンマーを囲む3Hクラス会

などなど、いずれもその実質リーダーとなり、精力的活動・努力はとても真似ることはできない。

尾崎君は尾崎英二建築事務所の代表取締役社長・会長であったが、事務所をまるで城北会の出先機関のように取り扱っているかのようだった。

たとえば尾崎君が留守の事務所に電話して「城北会の磯野ですが……」というのと、事務所員は「用件はなんですか」と答え、まるで事務所員を秘書のようにしつけていた対応だった。また、尾崎君は大のパソコン大嫌いでOA音痴のため、自分のメールアドレスはあってもメール発信作業は外部からみてわからないように事務所員が代行していた。

もちろん尾崎君は建築事務所経営者・技術者として沢山の建築業務をこなし、またテレビなどにも多く出演して建築業界発展に寄与していた。

尾崎君は特技として、人を大切にしながら人使

いのうまさに卓越していた。その手腕を紹介する。

城北会にはじめての女性副会長として同期館澄江嬢を送り込んだことは尾崎君の大ヒット。遠慮する館嬢を説得しきったのです。城北会では会長副会長など要職は男性だったが、初の女性副会長誕生に多くの役員の方々にはビックリしたようだ。

私も尾崎君の考え方や話術に乗せられたひとり。1994 (平成6) 年、尾崎君に「平成8年は懇親総会の当番年なので手伝ってくれないか」と言われ気軽に「いいよ」と返事した。これが大きな勘違いだった。なんも知らない私を理事会に連れ出し、そこで「今日から理事になった磯野君で懇親総会の実行委員リーダーになります」と紹介し、私を逃げられなくした。懇親総会は出席数新記録達成の大盛況、城北会に多額寄付もできた。

同期3Hの者は、担任だったガンマーこと柴田治先生を慕う気持が格段と強かった。多分他のクラスでは考えられないほど、生徒と先生の絆がしっかりと結びついていて、やあやあ会ホームページによると、このような3H仲間はいつまでもガンマーに会ってお喋りを続けたいと思っており、尾崎君を中心とする幹事の音頭で卒業直後にガンマーを囲む3Hクラス会がスタートした。クラス会は毎年欠かさず続けられ、それだけ尾崎君たちの思いの深さがあったのだろう。柴田先生は1985年に亡くなったが、尾崎君らは柴田先生を偲んで現在に至るまでクラス会を続けている。クラス会の前には下谷・随徳寺にある先生の墓前(写真)に行き献花、焼香をするのが恒例になっている。しかし現実、出席仲間も高齢になっている。柴田先生の強烈な個性を懐かしむ3Hクラス会は出席者がいる限り続くのだろうか？

尾崎英二君の城北会活動に対する活躍には感謝するのみである。本当にありがとうございました。

